小学校長期宿泊体験活動
実践事例報告書

違う自分に出会える４日間

仲間からの受容
困難に向かい合う
心震える感動
自分への自信

困難克服型
グループ活動重視型

体験の風をおこそう

平成28年6月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立吉備青少年自然の家

はじめに

「宿泊体験活動を通して，子供たちに生きる力を育みたい。」

児童をはじめ，教師や保護者などに大きな負担を求める３泊以上の宿泊体験活動を行う学校は，少なからずこのような願いを持って青少年教育施設を利用されている。

平成２０年告示の学習指導要領では，「体験活動の充実」が改訂の要点とされ，同年に策定された「教育振興基本計画」では，「小学校で自然体験・集団宿泊体験を全国の児童が一定期間（例えば１週間程度）実施できるよう目指すとともに，そのために必要な体験活動プログラムの開発や指導者の育成を支援する。」【第３章（３）】と明記された。

国立吉備青少年自然の家では，平成２２年度より本施設で３泊以上の宿泊を行う小学校を対象に，「小学校長期モデルプログラム開発」事業を行ってきた。本事業では，各学校の教育課題の把握から宿泊活動のねらいの設定をはじめ，効果的なプログラムの構成や指導方法の検討，事業運営での支援，宿泊活動全体の効果測定などを行い，４つのプログラム体系を作成した。また，近年はさらに効果的な実践として２つのプログラムに絞り，学校に応じた展開を行ってきた。それぞれのタイプ別に実践から得た成果を児童や教師，保護者の声とともに分析結果を交え，本報告書にまとめた。本事例が，今後，長期宿泊体験活動を実施する上で様々な学校が行う活動の参考になれば幸いである。

最後に，小学校長期宿泊体験活動に取り組まれた各学校および今回原稿執筆にご協力いただいた４校，調査分析を担当していただいた北翔大学の青木康太朗准教授に感謝申し上げる。

もくじ

【ページ】

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ　プログラム開発の意図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅱ　プログラム開発のポイント ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

Ⅲ　実践事例

＜困難克服型＞福山市立新市小学校 ・・・・・・・・・・・・・ 3

＜　〃　＞早島町立早島小学校 ・・・・・・・・・・・・・ 7

＜グループ活動重視型＞尾道市立山波小学校 ・・・・・・・・ １１

＜　〃　＞府中市立旭小学校 ・・・・・・・・・ １５

Ⅳ　調査分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １９

Ⅴ　参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２２

Ⅰ　プログラム開発の意図

１泊や２泊の宿泊に比べて３泊以上の宿泊体験活動の場合は，より多くの活動を取り入れる必要がある。「農業体験をさせたい。水辺の活動を取り入れたい。グループワークを入れて…」と模索すると，指導者の思いが優先されたり，活動場所の効率的な動線を優先されたりして計画を立ててしまうことがある。また，詰め込みすぎた活動プログラムは時間に追われ，活動をこなすことが目標となり，各活動プログラムが目指す目標が達成できず，その結果として本来の目的とは離れたものになってしまうことがある。すなわち，宿泊体験活動の効果は，プログラム全体の構成や活動プログラム一つ一つの指導法によっては効果に差が出てくる。

そこで，活動プログラムを分析して，活動プログラムで達成されるであろう目標を体系化して，目的に応じた全体プログラムを構成することから始め，タイプ別に４つのモデルプログラムを考案した。

そして，学校を取り巻く地域や児童の実態，学年の教育目標，予算，時期，児童数，指導者数等の条件によってプログラムの構成や指導方法を工夫しながら実証を行った。

Ⅱ　プログラム開発のポイント

プログラム企画を「何をやるのか」から「何のためにやるのか」へと，目的に応じて４つのプログラムにまとめた。

１．困難克服の活動を取り入れたプログラム（以下,「困難克服型」という。）

「中国地方最高峰である大山（標高 1,709m）への登山」や「歴史や自然を学びながら約２０ｋｍの距離を歩くロングウォーク」をプログラムに取り入れている。山場である３日目にこの活動プログラムにチャレンジするため，一つの目標に向かって協働作業を行う活動プログラムを組み入れ，最後に大きな課題を克服できるように仕向ける。励まし合うことや相手を思いやることが培われるプログラムである。

２．グループ活動を重視したプログラム（以下,「グループ活動重視型」という。）

非日常の青少年教育施設で，友達と協力して自分たちで生活することに重点を置いたプログラムである。宿泊体験活動のルール決めや，その運営に子供たちも参画できるように，時間的に余裕を持たせる。活動毎の振り返りから生まれる気付きにより，集団の機能を高めていくプログラムである。

３．教科や総合的な学習を取り入れたプログラム

学級で「学びの環境作り」を行った後，林業体験を社会や総合的な学習に位置付けたり，理科の「水の流れ」の実験をグループワークとして課題解決的に扱ったりすることで，授業時数にカウントして行うプログラムである。

４．基本的なプログラム

国立吉備青少年自然の家の活動プログラムを基本にして構成したプログラムで，ストーリー性や活動プログラムの効果を組み合わせ，目的に応じて展開することができるプログラムである。

これらの４プログラムを開発し，学校の実情に合わせて実施する中で，困難克服型かグループ活動重視型のどちらかを展開していく学校が増えてきた。さらに，ここ数年はグループ活動重視型から困難克服型へ移行する学校があり，宿泊体験活動に求める目的がより明確になりつつある。

＜困難克服型＞（事例１）

福山市立新市小学校　５年生

１．学校概要

明治６年に品治郡新市村立新市小学校として創立した。その後発展を続け，平成１５年２月３日福山市との合併により福山市立新市小学校となる。新市町は福山市の北西部に位置し，備後絣からワーキングウエアー繊維の町へと発展してきた。町の人口は約２２，０００人で，山や川に恵まれ自然が豊かである。

地域で子どもを見守り育てようとする熱意が強く，毎朝のあいさつ運動・登下校の見守り・読書タイムでの読み語り・高学年児童との地域清掃活動・卒業記念の植樹など，多くの関わりを持っている。また，保護者を中心として活発なPTA活動も行っている。学校教育に対して積極的に関わりを持ち，熱い期待を寄せている。

２．長期宿泊体験活動の目的と内容

（１）目的　①集団宿泊活動や自然体験などの様々な体験活動を通して，自ら課題を発見したり解決したりする能力の基礎を養う。また，課題を解決していくことによって，自己肯定感を高めるとともに，友だちのよさに気づかせる。

②集団で過ごすことによって，仲間づくりに必要なコミュニケーション能力を育成し，共に学び合うことのよさを実感させる。

③長期にわたる宿泊体験をすることにより，お世話になった方々に感謝する気持ちを育み，協力と責任を果たすことの大切さに気づかせる。

（２）内容　①期　日　平成２７年９月１日（火）～４日（金）　３泊４日

②児童数　男児１７人，女児２０人　合計３７人　１クラス

③主な活動　大山登山，カッター活動，キャンドルのつどい，イニシアチブゲーム，クラフト，宿泊研修のまとめ

（３）運営　①引率　教頭，教諭３人　延べ４人

②経費　参加児童（１人あたり）：12,197 円

県からの補助金：152,000 円

３．企画のポイント

福山市立新市小学校５年生の児童は，物事に積極的に取り組み，活発に活動する児童が多い反面，途中であきらめてしまったり先のことや周りのことを考えずに行動したりする児童も少なくない。

今年度の野外活動としては，「仲間で協力して課題を解決し，最後までやり遂げる。」を目的としている。そこで全体のプログラムの構成は困難克服型を設定して，次のように活動プログラムを行った。

１日目は，入所時にアイスブレイクを行った後，ビーイングの作成を行った。ビーイングでは４日間の目当てを確認し，グループの意思の疎通を図った。その気持ちを１回目のカッター活動に生かし，振り返りでは，みんなが協力するためには何が大切か，そのためにはどうすれば良いのかなどをみんなで考えた。

２日目は，２回目のカッター活動と野外炊事を中心に行った。カッター活動では，昨日の振り返りを生かして，声かけや友達など周囲にも気を配ることを意識した。野外炊事では，それぞれ分担した役割を責任もって行うことや，互いに声かけや活動の流れを確認することで，安全に協力することを心がけた。

３日目は，最大の山場，大山登山を行った。前夜には，隊列や休憩ポイントなどのコース確認，緊急時の対応について先生方と話し合った。実際の登山では，子どもたちのペースに合わせることや隊列を入れ替えるなど，全員で登り切るために配慮した。途中，子どもたち同士で励まし合う場面も多かった。

最終日は，４日間の思い出を振り返りながら行えるクラフトの焼き板を設定した。

このようにして，この４日間で子どもたちの何事も最後までやり遂げようとする力や自ら課題を解決しようとする力の定着を考え，企画のポイントとした。

４．プログラム

	6 15	45	7 15	30	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17 15	30	18	19	20	21	22	
9月1日							入所式	移動 入室	アイスブレイク	昼食（レストラン）	移動	カッター ①		移動 休憩	タベのつどい	夕食（レストラン）	休憩 移動	入浴	ふり返り	就寝準備	就寝
9月2日	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食（レストラン）	準備 移動	カッター ②		移動	昼食（レストラン）	移動	振り返り	野外炊事			野外炊事		入浴	ふり返り		
9月3日	朝食	移動			大山登山（レストラン弁当）								バス移動			バス移動	夕食（レストラン）	休憩 準備	キャンドルのつどい	入浴	
9月4日	就寝	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食（レストラン）	荷物整理	点検	焼き板		昼食（レストラン）	まとめ	退所式									

５．活動の様子

「アイスブレイク」気持ちもほぐれました

「カッター①」悪戦苦闘！

「カッター②」息もそろってきました

「野外炊事」役割分担して協力が大事

「大山登山」登り始めはまだ元気

「キャンドルのつどい」ろうそくの炎を見ながら３日間を振り返りました

６．調査結果

困難克服型で，３日目の「大山登山」に向けてプログラムを組み，初日のアイスブレイクの後，野外炊事とカッター活動に２回取り組み，それぞれの役割を自覚し，グループで協力する場面を多く設けた。

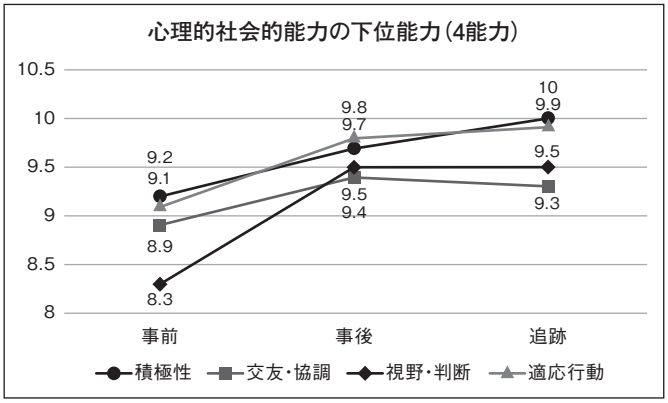
生きる力の調査では，表１のとおり有意な数値の上昇が見られた。困難克服型であるので，心理的社会的能力の下位能力８項目のうち「積極性」「交友・協調」「視野・判断」「適応行動」の４項目に注目してさらに分析を行った。調査項目２項目の平均点（満点は１２点）を比較すると，グラフ１のとおりであった。

＜表１＞

	事前	事後	追跡	F値		事前－事後	事前－追跡
生きる力	130.6	139.5	141.5	10.466	***	＜	＜
心理的社会的能力	63.4	68.7	69.1	10.766	***	＜	＜
徳育的能力	38.7	40.6	42.1	8.044	***	＜	＜
身体的能力	28.6	30.3	30.3	5.838	***	＜	＜

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

＜グラフ１＞



事前－事後で最も上昇したのは「視野・判断」で1.1ポイント上昇しており，特に調査項目の「先を見通して，自分で計画が立てられる」が最も高い0.8ポイント上昇した。これは，野外炊事やカッター活動をそれぞれ２回実施したことや３日目に全員で協力して大山登山を成功させたことで，失敗経験を生かして仲間との理解を深め，大きな目的に向かって一致団結して取り組んだ成果と考えられる。

７．児童の感想

僕の１年間を表す漢字は，「実」です。理由は，野外活動を通して，多くの力が実ったと感じたからです。この野外活動の４日間で特に忘れられないことが２つあります。

１つ目は，カッター訓練です。もっと速くボートを進めたい。みんなそんな気持ちばかりが焦り，なかなか前に進みませんでした。思うようにいかず，文句や愚痴もつい言ってしまいました。しかし，ずっと文句を言っていてもいけないと思い，２日目にはみんなの気持ちを合わせることを意識しました。「オーエス・オーエス」これは，魔法のかけ声です。この言葉を合わせることで，腕の痛みを我慢し，みんなでボートを進めようという前向きな気持ちになれたのです。

２つ目は，大山登山です。「しんどい。」みんなが何度も思い，口に出し，あきらめそうになったプログラムです。途中，もしかしたら下山しなければいけない人がいるかもしれないと何度か思いました。しかし，「がんばろう，もう少し」など，友達に声かけをしたり，荷物を持ちあったりするなど，多くの人のサポートのおかげで登りきることができました。頂上に登った時は本当にうれしかったし，みんなで下山したときは，やりきったという達成感でいっぱいでした。

これらの経験が，野外活動を終えた今でも心に残り，学校生活の様々な場面で生かされています。「協力する」「やりきる」そんな力が実った野外活動でした。

８．保護者の感想や反応

①今まで以上に何事も積極的になったと思います。自分の意見もしっかり主張するようになったと思います。やらなければならない，自分に与えられたことは責任や計画性をもって行動しているように感じます。

②友達と意見が合わない場合でも，相手のことを考えながら，行動しています。

③以前に比べて自分でできることは自分でする機会が増えたこと，自分でできるかどうか迷っても「チャレンジしてみよう」とすることが増えました。

９．学級担任からの成果や課題

「つながってやりきろう」というめあてを決めて始まった野外活動でした。

成果

①プログラムを最後までやり遂げることで，自己肯定感を高めることができた。

②グループ活動を通して，困っている友だちに優しく声をかけたり，励ましたりするなど相手の気持ちを思いやるようになった。

③大山登山によりお互いに励まし合いながら全員が山頂に立てたことなどにより，苦しくても粘り強くやりきる力がついてきた。

改善点

①ともに学び合うよさを体験活動で行っていったが，日常の教科学習でも，もっと生かすようにしていく。

②すべての児童が目標を達成できるプログラムを開発していく必要がある。

このように，学校だけでは，学ぶことができない多くの経験ができた野外活動であった。

＜困難克服型＞（事例２）

早島町立早島小学校　５年生

１．学校概要

本校は，児童数７５０名学級数２９の大規模校である。

早島町では，平成２５年学校教育ビジョンを策定し，めざす子ども像を「地域とつながり未来を拓く早島っ子」として，ビジョン実現に取り組んでいる。その中で保育園を含めた保・幼・小・中の連携強化と，小中一貫教育を推進している。

２．長期宿泊体験活動の目的と内容

（１）目的　　自分の役割をしっかりと自覚し，友達と協力しながら進んで活動する。

（２）内容　　①期　日　　平成２７年１０月５日（月）～８日（木）　３泊４日

②児童数　　男児７０人，女児５８人　合計１２８人　４クラス

③主な活動　大平山ロングウォーク,カッター活動,キャンプファイヤー,イニシアチブゲーム，クラフト，宿泊研修のまとめ

（３）運営　　①引率　　校長・教頭(入れ替えで)，教諭　合計１４人，

看護師　最終日１人

ボランティア　６人(内学生４名)

②経費　　参加児童：5,000 円

岡山県からの補助金：678,496 円

３．企画のポイント

早島町立早島小学校の学校目標は,「自ら学び，心豊かですこやかな早島っ子を育てる。」と設定している。

今年度の５年生の野外活動としては「一人ひとりが輝こう！」を目的として設定しているので，全体のプログラムの構成は困難克服型を設定して，次のように活動プログラムを設定した。

１日目は，全体でのアイスブレイクと班で課題を解決するイニシアチブゲームに挑戦した。１人では解決できない課題を友達と意見を出し合いながら解決するところである。その後の野外炊事では，班での協力を生かしながら，それぞれの役割を果たすことを意識して野外炊事を行った。夜のプログラムでは，天体観察とナイトハイクを行い吉備の夜空や真っ暗闇を体験した。

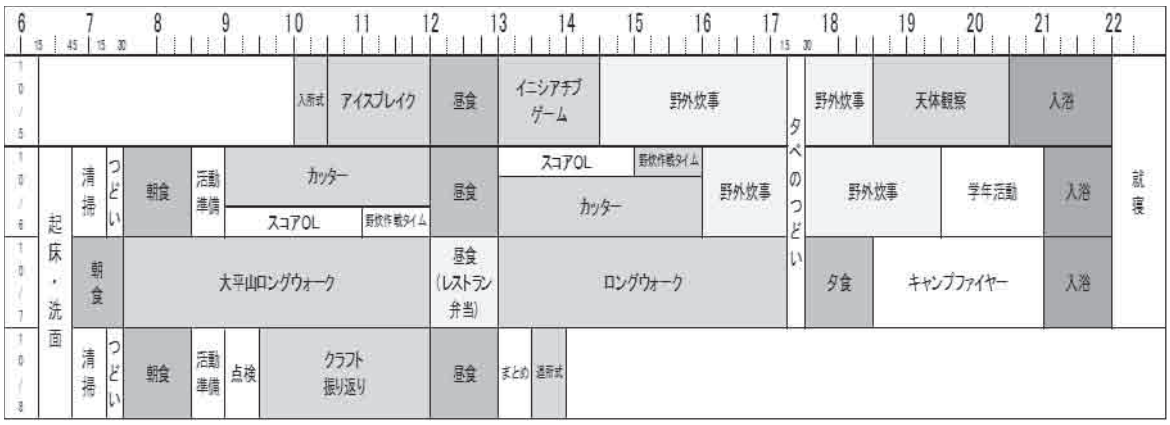
２日目は，カッター活動とスコアオリエンテーリングを同時進行で行った。カッターの活動では，重さ１トンを超える船を協力して櫂をそろえて前に進めることで，力を一つにした時に大きな力に変えられることを学んだ。２回目の野外炊事では，１回目よりも自分の役割を自覚したうえで炊事を行い，その違いを体験し振り返ることで役割と責任の自覚を行った。

３日目は，約１７ｋｍのロングウォークに挑戦し自分自身の頑張りと友達への声掛けをとおして共に頑張ることと大平山へ登頂することで達成感を味わった。

４日目の最終日は活動を振り返りクラフト（焼き板）を作成し印象に残った活動や

思い（文字）を描いた。そして，初日に作った班単位でのビーイングのまとめを行い，班単位でどんなことを意識しながらテーマ「一人ひとりが輝こう！」の目標達成に向けて取り組んだかを発表した。

４．プログラム



５．活動の様子

「イニシアチブ」話しあいながら目標を達成するぞ

「野外炊事」すごい火力にびっくり

「カッター」力を合わせ１トンの船を動かすぞ

「スコアＯＬ」ポイントはどこだ～！

「ロングウォーク」必ず登りきるぞ
歩け歩け

「クラフト」４日間のまとめで焼き板
に思い出を描くぞ

６．調査結果

困難克服型で，３日目の「大平山へのロングウォーク」に向けて初日の仲間づくりの後，野外炊事２回とカッター活動２回に取り組み，グループでの協力とともに自分の役割と責任の自覚を促した。

生きる力の調査では，事前―事後および事前―追跡の向上について，表２のとおり上位能力３項目ともに有意な数値の上昇が見られた。さらに，具体的な調査項目で見てみると，グラフ２のとおり，事前－事後で次の調査項目の上昇が大きい。

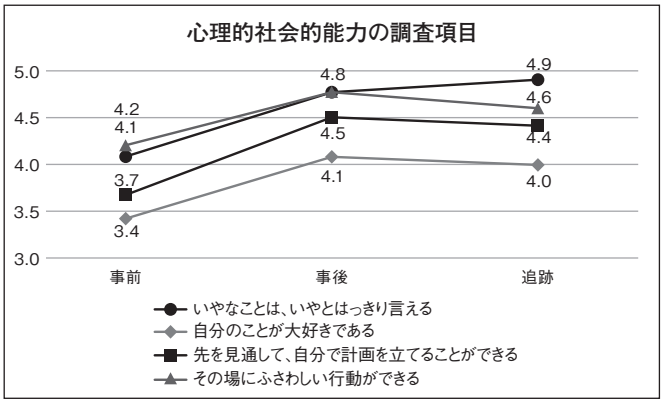
「先を見通して，自分で計画が立てられる」（事後 0.8 上昇）
「いやなことは，いやとはっきりと言える」（事後 0.7 上昇→追跡 0.8 上昇）
「自分のことが大好きである」（事後 0.7 上昇）
「その場にふさわしい行動ができる」（事後 0.6 上昇）

＜表２＞

	事前	事後	追跡	F値		事前－事後	事前－追跡
生きる力	119.3	133.5	130.9	69.632	***	＜	＜
心理的社会的能力	58.4	65.3	64.3	60.547	***	＜	＜
徳育的能力	36.0	39.6	38.8	35.710	***	＜	＜
身体的能力	24.9	28.6	27.7	51.720	***	＜	＜

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

＜グラフ２＞



自分の役割と責任の自覚を促すプログラム運営として，ビーイングを活用して活動を振り返りながら同じ活動を２回実施したことやロングウォークという学年全体の目標に向かって取り組んだ成果と考えられる。

７．児童の感想

①大平山ロングウォークで見事歩き抜くことができました。「やればできる。」と確信し，自信がつきました。そのことを今も忘れず学校生活でたくさんのことに取り組んでいます。
②友達同士で「ガンバレ。」と励まし合ったことで，助け合いと協力の大切さを学びました。友達とは山の学習に行く前よりさらに仲良くなりました。さらに，今まで話さなかった人と話せるようになりました。
③カッター活動をする前は，めんどくさいことはあまり真面目に取り組んでいませんでした。しかしカッター活動を通して，つらい事や面倒なことも進んで取り組めるようになりました。
④山の学習を終えて，男女関係なく仲良くなれました。大変なことがあってもがんばれます。
⑤全部の活動で，仲間と協力ができたので，学校の勉強が楽しくなりました。自分の力を，よりよく山の学習で引き出すことができました。

８．保護者の感想や反応

①自分のことだけでなく，周囲の子の様子も気にかけられるようになったと思います。
②スポーツをしていてチームメイトへの口調が変わった。
③以前より色々なことに気づくようになり，お手伝いも自分からよくしてくれています。
④今まで家族と離れて，このように長い間過ごすという経験がなかったので，親子共に不安がありました。でも，帰ってきた時の顔は，本当に達成感で一回り大きくなった様に感じました。
⑤沢山の友達と交流して人とのつながりや人間関係に役にたったと思います。
⑥３日間の山学はすべてが新鮮で輝いていた様です。とてもいい経験になりました。

９．学級担任からの成果や課題

事前指導をしっかりやったおかげで，大きなトラブルが無く活動を終えることができた。どのプログラムも児童にとって魅力ある活動であった。活動を通して，友達と協力することの大切さや喜びを感じ，所属グループのために自分は何をすべきか意識する気持ちが高まり，クラスの団結力がさらに強くなった。また，困難を克服する体験を通して児童が自らの成長を感じた。宿泊体験活動で自己肯定感を高められたことは大きな成果である。

課題としては，アレルギー対応や準備，会計などで担当教員の負担は大きかったが，それ以上の成果はあった。運営面では，１２８人という児童数のため，安全確保の面でボランティアの確保が必須である。

＜グループ活動重視型＞（事例１）

尾道市立山波小学校　５年生

１．学校概要

本校は，明治６年開校以来１４３年を数える伝統ある学校である。尾道水道に面し，目の前には向島，遠くに四国の山々を眺めることのできる風光明媚な場所に位置する。

地域には,「山波とんど」「もちつき神事」「山波神楽」など古くから伝わる伝統的な行事がたくさんあり，地域の皆様とともに子供達も行事に参加し，素晴らしい伝統を受け継ぐ後継者として成長させて頂いている。また，山波には「いちじく」「桃」「みかん」など，たくさんの特産品もあり，「自慢のふるさと山波」である。

２．長期宿泊体験活動の目的と内容

（１）目的　自然体験，集団宿泊体験を通して，集団の一員としての自覚を高めるとともに，仲間と協力する良さや大切さに気付かせる。

（２）内容
- ①期　日　平成２７年９月２９日（火）～１０月２日（金）３泊４日
- ②児童数　男児２３人，女児１４人　合計３７人　１クラス
- ③主な活動　イニシアチブゲーム，マウンテンバイク，カッター活動，野外炊事，ウォークラリー，キャンプファイヤー，焼き板づくり，学習のまとめ

（３）運営
- ①引率　校長，教諭３人，延べ４人
- ②経費　参加児童：6,575 円
  広島県からの補助金：148,000 円

３．企画のポイント

本校の５年生児童は，明るく元気で，何事にも素直に取り組む反面，依存心が強く，何でも教師に頼る傾向にある。

故に，今年度のいきいきスクールのテーマを「自主・自立」と設定した。

全体のプログラム構成は「グループ活動重視型」とし，次のように活動プログラムを企画した。

１日目は，いきいきスクールの目的を焦点化し，自発的な活動を促した。午前のイニシアチブゲームでは，グループ活動の基盤となる仲間意識を高めた。午後のマウンテンバイクでは，各自の目標に応じたコースを選択させた。活動を通して，課題に対して自ら挑戦し，克服していくという気持ちを高めた。

２日目は，カッター活動と野外炊事をグループで行わせた。カッター活動で深めた協力意識を野外炊事で生かせるように，野外炊事前に作戦タイムを設けた。

３日目は，ウォークラリーをグループで行わせた。３日目までのグループとして活動できる力を活動の中で最大限生かせるようにした。さらに，キャンプファイヤーで３日間の頑張りを認め合い，学級全体のつながりを深める場を設定した。

最終日は,焼き板づくりでいきいきスクールの思い出を形として残せるようにした。学習のまとめではビーイングを活用し，この４日間で学級として成長したことを共有し合い，今後の生活に生かせるようにした。

さらに，１日目の『はがき作り』，２日目の『後半に向けて家族からの手紙を読む』を中心に，親への感謝の気持ちを育むことをねらいとして，子から親へ，親から子へ文章で気持ちを伝える場面を設定し取り組んでいる。

４．プログラム

	6:15	7:45	7:15	8:30	9	10	11	12	13	14	15	16	17:15	18:30	19	20	21	22
9/29							入所式	イニシアチブゲーム	昼食（レストラン）	荷物整理	マウンテンバイク（鬼ヶ島コース）		夕べのつどい	夕食（レストラン）	はがき作り		入浴	学習のまとめ	就寝
9/30	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食（レストラン）	準備	カッター		昼食（レストラン）	ふりかえり 野外炊事のための作戦タイム		野外炊事			野外炊事	後半に向けて手紙を書く		入浴	学習のまとめ	
10/1				朝食（レストラン）	準備	ウォークラリー（牧場コース） 昼食（レストラン弁当）								夕食（レストラン）	キャンプファイヤー	学習のまとめ	入浴	荷物の整理	
10/2				朝食（レストラン）	片付け	点検	焼き板づくり	ふり返り 学習のまとめ	昼食（レストラン）	退所式									

５．活動の様子

「マウンテンバイク」急な坂道にも勇気を出して挑戦しました

「カッター活動」みんなで声を出し櫂をそろえられるように頑張りました

「野外炊事」調理も頑張ったけど，後片付けはもっと頑張りました

「家の人への手紙」吉備で頑張っていることを家の人へ伝えました

「家の人からの手紙」手紙を読むと，ありがとうの気持ちが大きくなりました

「ウォークラリー」途中で迷ったけど協力しながら進むことができました

６．調査結果

グループ活動重視型でプログラムを組み立て，イニシアチブゲームで３泊４日での仲間づくり活動をスタートさせ，カッター活動や野外炊事，ウォークラリー（１日コース）などに取り組み，活動後のビーイング（振り返り）で活動を通したグループ内でのコミュニケーションを高めた。

リーダーシップ測定尺度での調査結果は表３のとおりで,「リーダーシップ」及び上位指標の「課題達成機能」に事前―事後，事前―追跡で有意な数値の上昇が見られた。

更に，中位指標の中では，グラフ３のとおり，特に「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」（事後 1.1 上昇→追跡 1.2 上昇）及び「困難に自ら立ち向かおうとする力」（事後 1.1 上昇）に有意な上昇が見られた。

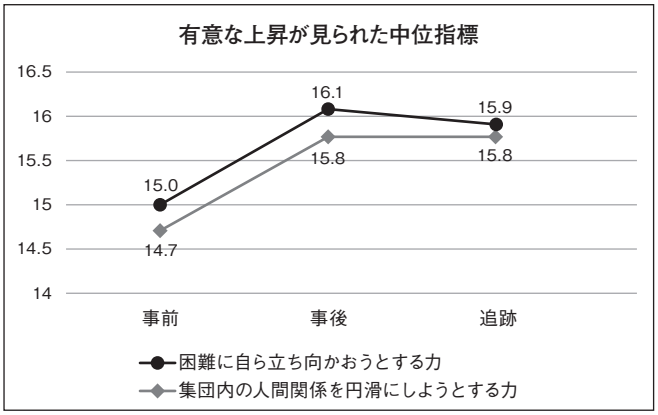
これらのことから，カッター活動で深めた協力する意識を活用して野外炊事前に作戦タイムを設け，３日目には１日がかりでウォークラリー（牧場コース）にグループで挑戦したことから，児童の人間関係が高まったと考えられる。

＜表３＞

		事前	事後	追跡	F値		事前－事後	事前－追跡
リーダーシップ		77.6	81.1	81.6	7.738	**	＜	＜
課題達成機能		46.0	48.5	48.7	9.847	***	＜	＜
	困難に自ら立ち向かおうとする力	15.0	16.1	15.8	8.161	**	＜	＜
	計画的に考え行動する力	14.9	15.6	16.0	4.830	*	＝	＜
	情報を収集し、創造力をもって課題を解決しようとする力	16.2	16.8	16.9	4.245	*	＜	＝
集団維持機能		31.6	32.5	33.0	2.747			
	役割を意識し、集団の規範を守る力	17.0	16.8	17.1	0.445			
	集団内の人間関係を円滑にしようとする力	14.7	15.8	15.9	7.650	**	＜	＜

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

＜グラフ３＞



７．児童の感想

① いきいきスクールでは，先生に時間や集合場所は聞かず，全部しおりを見て行動しなければなりませんでした。だから私達は，いつも時計を見て，友達と声をかけ合って次の活動に間に合うように集まることをがんばりました。

② いきいきスクールで私が成長したと思うことは２つあります。１つ目は，班長になって班をまとめることができたことです。２つ目は知らない人の前でも原稿なしで話せるようになったことです。行く前は，学級委員などの仕事は出来るだけさけていました。だけどいきいきスクールへ行ったことで，消極的な自分が積極的になりました。これからは，児童会活動を積極的に取り組んでいきたいです。

８．保護者の感想や反応

① 以前は面倒くさがって何事にも消極的なところがあり，心配していました。班長として皆の前で挨拶をしたり，皆をまとめたりするのは恥ずかしがっていたみたいです。しかし，合宿が終わった時には，やって良かったと感じたようです。それからはいろんなことに積極的に挑戦したり，人前で発表したりすることができるようになりました。自分に自信が持てるようになったのだと思います。

３学期に，我が子が児童会会長に立候補した時には驚きました。

② 我が子にとってたいへん貴重な４日間のようでした。家に帰るとたくさん話を聞かせてくれました。初めてのことばかりだったのですが，失敗しながらも友達と協力して，自分たちの力でやり遂げるという経験ができ，自信につながったようです。

友達との仲もさらに深まり，物事に対して，楽しみながら前向きに取り組むようになったと感じています。楽しい雰囲気を作り，子供たちをご指導くださった先生方，指導員の皆様，ありがとうございました。

９．学級担任からの成果や課題

本年度「いきいきスクール」のメインのテーマは「自主・自立」であった。参加した５年生の課題は，「何でも教師に質問する」（依存心が強い）ことであった。

そこで，全活動を通して次の３つを重点に行った。

① 楽しみながらしっかり班で話し合えるよう，時間的に余裕が持てる計画にする。

② 各班の班長が実行委員になり，学校の代表として朝夕の集いや挨拶などは全て原稿なしで行わせる。

③ 計画を事前に説明し，活動中の質問には答えず，しおりを見て行動させる。

普段の学校生活は，ほとんど教師が準備・計画した中で教育活動が行われている。

しかし，国立吉備青少年自然の家では，恵まれた自然環境や充実した施設の中で，４日間という長い時間を使い，児童が自分達でじっくり考えて行動するまで待つことができた。また，失敗しても考えた過程を認めることで，児童は自分に自信を持ち，積極性を身につけることができた。

今では最高学年として，１人１人が様々なことに積極的に挑戦し，お互いに認め合える学級集団として活躍している。

＜グループ活動重視型＞（事例２）

府中市立旭小学校　５年生

１．学校概要

学校教育目標

「つよい子　かしこい子　やさしい子の育成」

所在地　府中市中須町６１０番地

児童数　２４４人

本校は，府中市の南東部に位置し，小高い丘の上に立つ４６年の歴史を持った学校である。学校教育目標を「つよい子，かしこい子，やさしい子の育成」とし，気力と忍耐力があり，心身ともにたくましい児童，どの教科もあきらめないで全力で勉強できる児童，素直な心と感謝の心を持ち，機嫌よく過ごすことができる児童の育成に取り組んでいる。

３年前より，文武両道をめざし，府中市の体力向上推進校として，学校をあげて児童の体力向上に取り組んだ。昨年度は，「広島県体力つくり奨励賞」（広島県）ならびに「ＭＯＡ美術館児童作品展学校奨励賞」（文部科学省）を受賞した。

今年度は，平成３０年度から始まる「コミュニティー・スクール」指定に向けて，研究と準備を進めている。学校と地域が力を合わせ，それぞれの立場で地域の子供達の成長を支えていく学校づくりを目指している。

２．長期宿泊体験活動の目的と内容

（１）目的　　自分たちで判断し，率先して何事も積極的に行い，最後までやりきる力をつける。

（２）内容　　①期　日　　平成２７年８月２４日（月）～２７日（木）　３泊４日

②児童数　　男児２６人，女児１５人　　合計　４１人　　１クラス

③主な活動　　野外炊事（２回），カッター活動（２回），キャンプファイヤー，オリエンテーリング（２回），焼き板づくり

（３）運営　　①引　率　　校長，教頭，教諭３人，養護教諭１人　　延べ６人

②経　費　　児童負担金 9,000 円（積立方式）

県からの補助金 164,000 円

３．企画のポイント

府中市立旭小学校５年生の児童は，明るく元気で指示したことは頑張ることができる一方，相手を思いやったりその場に応じた行動をとったりすることができない児童が多い。

今年度の野外活動としては，自分たちで考え，場に応じた行動や対応ができることを目的として設定しているので，全体のプログラムの構成はグループ活動を重視したステップアップ型として，次のように活動プログラムを設定した。

１日目は，アイスブレイクで気持ちをほぐした後，ビーイングを作成した。４日間の目当てに迫るために自分達には何が大切なのかを書き入れた。その気持ちを持ちながら１回目の野外炊事につなげていけるように構成した。

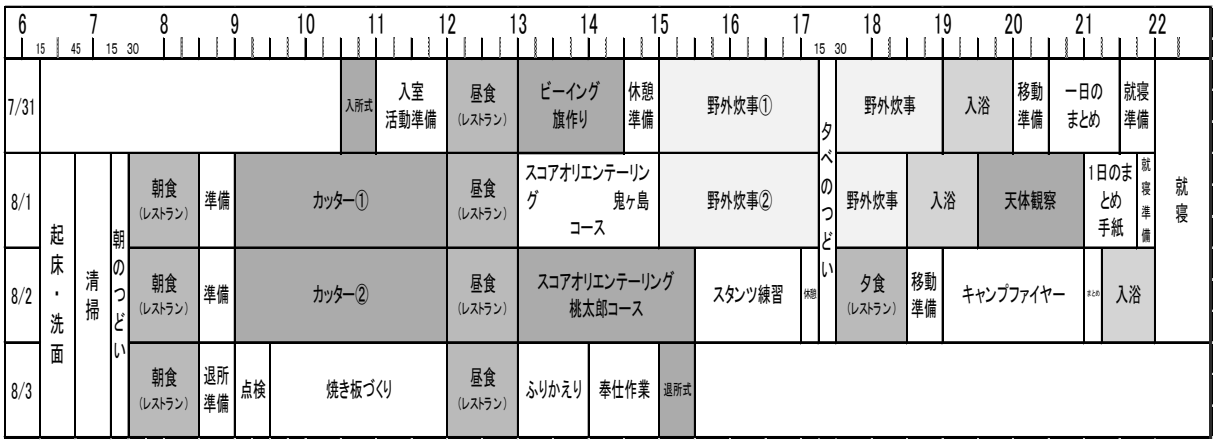
２日目は，協力が必要なカッター活動（１回目）に向け，櫂をそろえ心をそろえるには何が大切なのかをみんなで考えてから活動を開始した。午後に行うオリエンテーリングでは，ショート

エリアの鬼ヶ島コースを設定し，グループの自主的な場とした。２回目の野外炊事では１回目を振り返り，役割分担やそれぞれの担当作業の流れ，安全について再度確認したことを生かした。前回に比べ，児童の動きもスムーズになりグループの連携もとれていた。

３日目は，２回目のカッター活動と２回目のオリエンテーリング（活動エリアを拡大した桃太郎コース）を中心に行った。前回の活動を振り返り，グループやクラスがどのようにステップアップできるかがポイントとなる。集団に有効な声かけや話し合い，互いに協力する場面が増えることを期待した。

最終日は，４日間を振り返りながらクラフトの焼き板を行った。一番思い出に残っていることを絵で表現し，グループで共有した。協力を必要とする活動を繰り返し行うことで，自分たちで考えて行動する力や協力して最後までやり遂げようとする力をつけることをねらった。

４．プログラム



５．活動の様子

「ビーイング」４日間の目標を立てました

「野外炊事」次の団体のため鍋を洗います

「オリエンテーリング」相談して前へ！

「キャンプファイヤー」親睦の火！

「焼き板づくり」思い出を書き入れました

「奉仕作業」感謝の気持ちを込めて

６．調査結果

グループ活動重視型で，それぞれの活動を２回実施することとし，野外炊事（１日目と２日目）及びカッター活動とオリエンテーリング（２日目と３日目）に取り組んだ。活動後の振り返りを通して，自分たちで考え，最後までやり遂げる機会と時間を十分に確保できるようにプログラムを組み立てた。

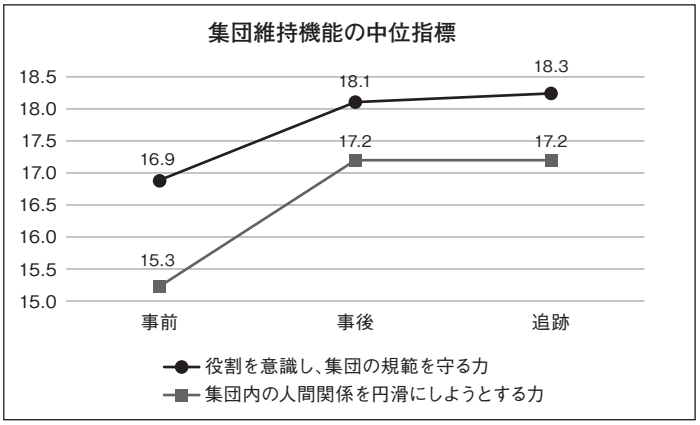
リーダーシップ測定尺度では，表４のとおり上位指標および中位指標ともに事前―事後と事前―追跡で有意な上昇が見られ，すべての項目で事後－追跡の数値も上昇または維持していた。特に平均値の上昇が高かったのは，集団維持機能の「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」（事後1.9 上昇）であった（グラフ４）。３泊４日のゆったりとした時間の中で，それぞれの活動を２回実施することで友達と協力するために必要な考えや態度に気づき，実践することで自信をつけた成果と考えられる。

＜表４＞

	事前	事後	追跡	F値		事前－事後	事前－追跡
リーダーシップ	79.9	87.4	89.1	39.51	***	＜	＜
課題達成機能	47.8	52.1	53.6	34.49	***	＜	＜
困難に自ら立ち向かおうとする力	16.0	17.6	17.9	20.71	***	＜	＜
計画的に考え行動する力	15.5	17.1	17.6	24.00	***	＜	＜
情報を収集し、創造力をもって課題を解決しようとする力	16.3	17.5	18.1	20.25	***	＜	＜
集団維持機能	32.1	35.3	35.5	30.87	***	＜	＜
役割を意識し、集団の規範を守る力	16.9	18.1	18.3	14.03	***	＜	＜
集団内の人間関係を円滑にしようとする力	15.3	17.2	17.2	26.57	***	＜	＜

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

＜グラフ４＞



７．児童の感想

①宿泊体験学習に行って，ぼくは協力ができるようになったと思う。声掛けや，力を合わせることで，いろんなことがうまくいくんだと気がついた。
②みんなで動くと，それぞれの生活のペースが違うから，みんなで生活するのは難しいんだなと分かったので，相手のことを考えて行動ができるようになった気がする。
③宿泊体験学習に行くまで，私は「団結する」なんて意味がないと思っていたけれど，団結をしないとうまくいかないこと，団結したから乗り越えられたことがたくさんあったのでびっくりした。
④友達の中には，苦手な子も何人かいたけれど，一緒に３泊４日過ごしてみて，その友達にもいいところがあるということに気付いた。新しい友達もできた。

８．保護者の感想や反応

①宿泊体験学習をずっと前から楽しみにしていて，準備の段階から自分でやることができた。
②これまで話をしたことのなかった友達と活動を共にすることで，少し子どもの価値観が変化したように思う。友達の良い面を見つけられるようになってきている。
③宿泊体験学習から帰ってすぐに子どもの変化があったわけではないが，確実に，１つ１つの行動に責任を持てるようになってきた。３泊４日の経験が，少しずつ出てきているように思う。
④前ほど些細なことでくよくよせず，自分で何とかしようという意欲が見られるようになってきた。
⑤親から離れた３泊４日は，とてもいい経験になったのではないかと思う。

９．学級担任からの成果や課題

明るく元気でパワフルな５年生は，指示したことはできるが，自分たちで考えて動くということが苦手だったので，今回の宿泊体験学習を通して，自分たちで率先して，考え，行動できるようになればと思っていた。

宿泊体験学習中には，ちょっとした意見のぶつかり合いはあったものの，班で協力をしながら，自分たちにとって何が一番ベストなのか，どうすればみんな楽しめるかを考えることができていた。
普段の学習や生活の中でも，宿泊体験学習での体験をフィードバックする場面になると，児童自らが，「体験学習でできたじゃない。だからやれるよ。」という前向きな発言が多くみられるようになった。

Ⅳ　調査分析

１．調査概要

（１）調査趣旨

小学校長期宿泊体験活動の有用性を検証するため，「ＩＫＲ（生きる力）調査」〔参考資料５，P22〕と「リーダーシップ測定尺度」〔参考資料６，P22〕を利用して，学年全体や各学級の変容を調査した。

ＩＫＲ調査では，下位能力の「積極性」,「視野・判断」,「交友・協調」,「適応行動」の能力の向上に注目し，リーダーシップ測定尺度では，中位指標の「困難に自ら立ち向かおうとする力」や「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」の向上に注目し，併せて具体的な各調査項目の変化にも着目して分析を行った。

調査の時期は，事前，事後，１か月後とし，長期宿泊体験活動の効果が継続しているかを把握できるように３回実施し，事前から事後への数値の上昇に加え，事後の数値から１か月後も更に向上している学校がどれくらいあるか，活動後の学級経営への影響も調査対象とした。

（２）被調査者

国立吉備青少年自然の家を利用して小学校長期自然体験活動（３泊４日）を実施した小学校の児童

学校数：１９校　児童数合計：１，１０９人

（３）調査用紙

①生きる力

上位能力	下位能力		調査項目
心理的社会的能力	非依存	1	いやなことは、いやとはっきり言える
		2	小さな失敗をおそれない
	積極性	3	自分からすすんで何でもやる
		4	前向きに、物事を考えられる
	明朗性	5	だれにでも話しかけることができる
		6	失敗しても、立ち直るのがはやい
	交友・協調	7	多くの人に好かれている
		8	だれとでも仲よくできる
	現実肯定	9	自分のことが大好きである
		10	だれにでも、あいさつができる
	視野・判断	11	先を見通して、自分で計画が立てられる
		12	自分で問題点や課題を見つけることができる
	適応行動	13	人の話しをきちんと聞くことができる
		14	その場にふさわしい行動ができる
徳育的能力	自己規制	15	自分かってな、わがままを言わない
		16	お金やモノのむだ使いをしない
	自然への関心	17	花や風景などの美しいものに、感動できる
		18	季節の変化を感じることができる
	まじめ勤勉	19	いやがらずに、よく働く
		20	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる
	思いやり	21	人のために何かをしてあげるのが好きだ
		22	人の心の痛みがわかる
身体的能力	日常的行動力	23	早寝早起きである
		24	からだを動かしても、疲れにくい
	身体的耐性	25	暑さや寒さに、まけない
		26	とても痛いケガをしても、がまんできる
	野外技能・生活	27	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える
		28	洗濯機がなくても、手で洗濯できる

②リーダーシップ測定尺度

上位指標	中位指標	下位指標	調査項目
課題達成機能	困難に自ら立ち向かおうとする力	意欲・自立性	人が嫌がることでも自分から進んで取り組むことができる
			すすんでお手伝いや勉強をすることができる
		危機意識	危ないことを予測して避けることができる
			その場の状況にあわせて考えることができる
	計画的に考え行動する力	計画・判断	決めた時間にあわせて行動することができる
			先のことを考えて行動することができる
		省察・アクション	内容を考えて話すことができる
			反省したことを次の行動や生活に生かしている
	情報を収集し、創造力をもって課題を解決しようとする力	情報収集	物事をいろいろな方向から見ることができる
			わからないことは自分で調べることができる
		想像力	うまくいくようにいろいろな工夫をすることができる
			興味のあることにチャレンジしてみたい
集団維持機能	役割を意識し、集団の規範を守る力	役割意識	自分がするべき役割をはっきりわかっている
			全体の目標にあわせて活動に取り組んでいる
		規範意識	ルールや約束を必ず守ることができる
			親や先生に言われなくても規則にしたがうことができる
	集団内の人間関係を円滑にしようとする力	伝達・コミュニケーション	困っている友達がいたら励ますことができる
			友達の立場になって話を聞くことができる
		ユーモア・明るさ	明るく元気にあいさつや返事ができる
			場を和ますことができる

（４）調査時期

事前調査：国立吉備青少年自然の家での入所式直後

事後調査：国立吉備青少年自然の家での退所式直前

追跡調査：国立吉備青少年自然の家を利用した約１か月後【学校で調査】

２．調査結果

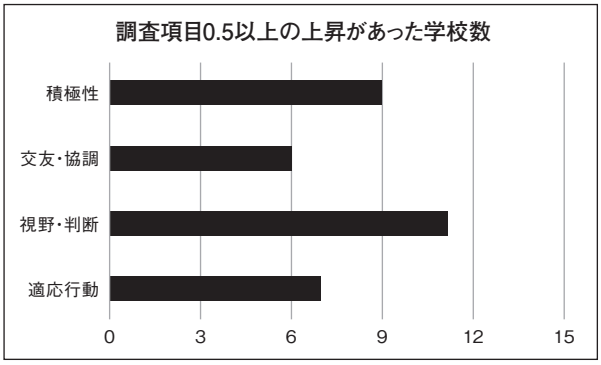
「生きる力調査」および「リーダーシップ測定尺度」について，北翔大学・青木康太朗准教授の協力を得て分散分析を行った。各学校の分析結果の詳細については，４つの事例の中で紹介をした。

ここでは，調査を行った１９校での調査結果を再分析することで見えてきた長期宿泊体験活動の効果について紹介する。

（１）生きる力

生きる力で注目した下位能力の「積極性」，「視野・判断」，「交友・協調」，「適応行動」について，事前－事後で有意な上昇が見られた１５校について再分析を行った。質問項目の得点の平均が 0.5 ポイント以上上昇した学校数は，表５およびグラフ５のとおりであった。

＜グラフ５＞



＜表５＞

	学校数
積極性	9
交友・協調	6
視野・判断	11
適応行動	7

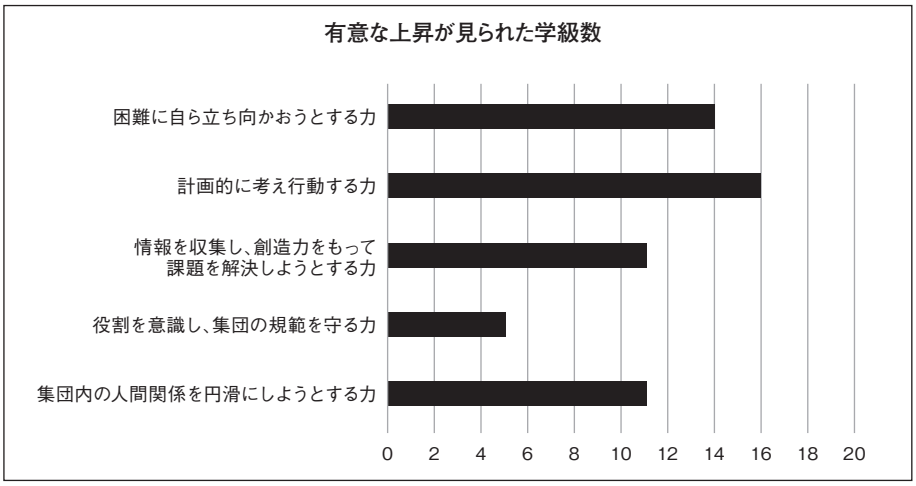
最も多かったのは，「視野・判断」の１１校で，その調査項目は「先を見通して，自分で計画が立てられる」，「自分で問題点や課題を見つけることができる」であった。

（２）リーダーシップ測定尺度

リーダーシップ測定尺度は，各学級ごとに分析を行ったために対象学級数は３１学級（１９校）であった。

リーダーシップ測定尺度で中位指標の変容について，事前－事後で有意な上昇が見られた学級数について再分析を行った。その結果はグラフ６及び表６のとおりであった。

＜グラフ６＞



＜表６＞

	事前－事後
困難に自ら立ち向かおうとする力	14
計画的に考え行動する力	16
情報を収集し、創造力をもって課題を解決しようとする力	11
役割を意識し、集団の規範を守る力	5
集団内の人間関係を円滑にしようとする力	11

調査前に注目していた「困難に自ら立ち向かおうとする力」や「集団内の人間関係を円滑にしようとする力」が伸びた学級も多いが，「計画的に考え行動する力」が伸びている学級数の割合が最も高かった。生きる力調査と同様な結果が現れている。

３．調査結果から見えてきた効果

失敗をやり直す体験から，児童が自ら考えて行動に移す成功体験

「生きる力調査」と「リーダーシップ測定尺度」の調査を実施することで，「困難克服型」と「グループ活動重視型」の目的に応じた力が伸びることを予測した。しかしながら，両方の調査で共通して「先を見通す計画性」の伸びが最も高かった。

これは，新しい試みとして「同じ活動を２回実施」したことの効果と思われる。うまくいかなかった部分について話し合い，改善方法を自分たちで考えて実践することでの成功体験の積み重ねが，児童の自信につながったと考えられる。

３泊４日だからこそ実現できる「失敗をやり直す体験」を生かして，時間的な余裕をもって「児童が自ら考えて行動に移す」ことを繰り返すことができるプログラムが，自信を高め，仲間との連帯感を培ったと考えられる。

Ⅴ　参考資料

小学校長期モデルプログラム開発事業では次の資料を参考にした。

１．教員のための効果的な体験活動のすすめ方　【平成２４年３月】
　　編集・発行　国立吉備青少年自然の家
＜内容＞１．はじめに
　　２．新しい学習指導要領で取り上げられた「体験」
　　３．体験学習法について
　　４．特別活動の学校行事で実施する「遠足・集団宿泊的行事」　ほか

２．小学校長期集団宿泊活動のご案内　【平成２５年３月】
　　編集・発行　国立吉備青少年自然の家
＜内容＞１　１泊より２泊！２泊より３泊がよい？　　３　吉備のプログラム立案の考え方
　　２　いろいろな支援が整っています

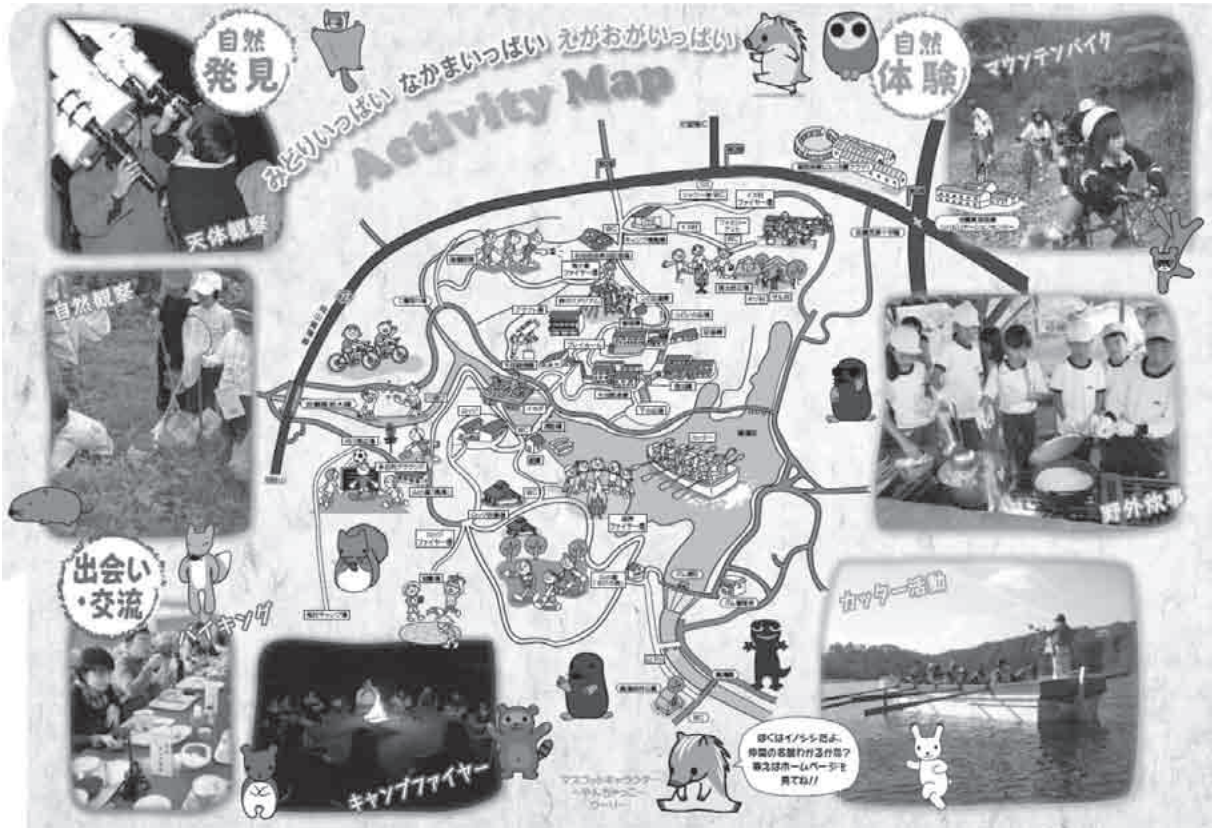
３．学校教育における「集団宿泊活動」の手引き　【平成２６年３月】
　　－各教科等の関連を図る教育課程編成指導資料－
　　編集・発行　国立青少年教育振興機構
　　長期集団宿泊活動の推進と学校支援の在り方に関する研究会
＜内容＞はじめに
　　手引きを活用するに当たって
　　目次
　　Ⅰ　巻頭言「今、体験を通して学ぶことの意味」
　　Ⅱ　学校教育における集団宿泊活動の意義
　　Ⅲ　集団宿泊活動で行われる各活動を教科等に位置付けた教育課程の編成
　　Ⅳ　集団宿泊活動で行われる各活動を教科等の教育課程に位置付けた展開例　ほか

４．学校で自然体験をすすめるために　【平成２２年３月】
　　編集・発行　国立青少年教育振興機構
＜内容＞第１章　学校教育における体験活動の意義　　第４章　自然体験活動の技術
　　第２章　教育課程と体験活動　　第５章　体験活動の指導法
　　第３章　プログラムの企画立案　　第６章　安全管理

※インターネットでの検索の仕方 国立青少年教育振興機構→青少年教育情報ポータル→調査研究報告書検索→キーワード入力

５．体験活動による「生きる力」の測定・分析ツール　【平成２２年３月】
　　「生きる力の測定・分析ツール」～アンケート用紙・分析ソフト付き～
　　編集・発行　国立青少年教育振興機構
＜内容＞はじめに　　Ⅱ　アンケート調査の実施方法
　　「生きる力」測定・分析ツールについて　　Ⅲ　分析ソフトのインストール
　　もくじ　　Ⅳ　調査結果の入力から分析結果の出力まで
　　Ⅰ　アンケート調査に関するQ&A　　Ⅴ　分析結果の見方　ほか

６．少年期のリーダーシップ測定尺度活用術　【平成２４年３月】
　　編集・発行　国立妙高青少年自然の家
＜内容＞１　これがリーダーシップ５つの力です。
　　２　なぜ、今、子どものリーダーシップが重要なの？
　　３　リーダーシップ５つの力を測定するためのリーダーシップ測定尺度とは ほか



編集・発行
独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立吉備青少年自然の家

TEL　０８６６－５６－７２３２
FAX　０８６６－５６－７２３５
E-mail　kibi-senmon@niye.go.jp